

「火の国、水の国で描く これからのまちづくり ～ 記憶・経験を未来につなぐ～」

第36回 全国自治体政策研究交流会議 くまもと大会
第36回 自治体学会 くまもと大会

2022 8/19(金) ~ 8/20(土)



江津湖 (写真提供：熊本市)

大会参加・参加者交流の場・エクスカージョン等のご案内

19日
(金)

○第36回全国自治体政策研究交流会議
くまもと大会

会場：熊本城ホール メインホール
(熊本市中心区桜町3番40号)

主催：熊本市

○第36回自治体学会くまもと大会
研究発表セッション・表彰式・参加者交流の場

会場：熊本城ホール 会議室(3階)
主催：自治体学会 共催：熊本市

20日
(土)

○第36回自治体学会くまもと大会
総会・分科会等

会場：熊本城ホール 会議室(3階)
(熊本市中心区桜町3番40号)

主催：自治体学会 共催：熊本市

21日
(日)

○第36回自治体学会くまもと大会
エクスカージョン

主催：自治体学会

火の国、水の国で描くこれからのまちづくり ～記憶・経験を未来につなぐ～

第 36 回全国自治体政策交流会議 ごあいさつ

第 36 回全国自治体政策研究交流会議くまもと大会及び第 36 回自治体学会くまもと大会の開催をお慶び申し上げますとともに、全国各地から熊本にお越しくださいます皆様方を熊本市民を代表して心から歓迎いたします。

また、自治体学会金井理事長をはじめ、関係者の皆様方におかれましては、日頃より、地方自治とまちづくりに関する研究等を通じて、地方自治の発展に多大なるご尽力をいただいておりますことに深く敬意を表します。

熊本市は、まちの中心部にそびえる勇壮な熊本城をはじめとした歴史と文化を誇り、清らかな地下水や豊かな緑、豊富な農水産物など、自然環境にも恵まれた都市です。また、平成 28 年に発生した熊本地震で甚大な被害に見舞われたまちも、全国各地の皆様方からのあたたかいご支援のもと、着実に復興への歩みを進めております。

このような中、ここ熊本において「火の国、水の国で描くこれからのまちづくり～記録・経験を未来につなぐ～」をテーマに、全国各地から多くの皆様方が未来のまちづくりに向けた政策を議論し、交流を深められますことは、誠に意義深く、各自治体の発展はもとより、本市の復興に向けた大きな励みになるものと確信する次第です。

ご参加の皆様には、本大会を通して研究と交流を大いに深めていただくとともに、地震から力強く復興したまちの姿をご覧いただければ幸いに存じます。

結びに、大会のご盛会、並びに関係者の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げまして、ごあいさつといたします。

熊本市長 大西 一 史

第 36 回自治体学会くまもと大会 ごあいさつ

第 36 回自治体学会の大会開催にあたり、自治体職員の自己研鑽の重要性を深く認識され、大会開催に向けて全面的な協力を頂いた皆様方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

2019 年度は、初めて都道府県ではなく、地元市町村を中心とする方式として、堺大会を開催したところでした。2020 年度・2021 年度はその流れを受け継ぎ、熊本市・川崎市などの皆様方の協力を得て、現地開催大会を目指して鋭意準備を進めてまいったところでした。ところが、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の蔓延に伴い、この 2 年間は、現地開催を断念して、ウェット大会とさせて頂いたところでした。2020 年度は初回で方法を模索することもあり小規模なものに留まりましたが、昨年度はほぼフルの規模で 3 日間にわたって開催することができました。新しい情報技術であるオンライン方式の威力を体感したところですが、同時に、当たり前だと思っていた現地対面開催の深い意義も、改めて感じ入ることとなりました。

そこで、今年度は是非、現地対面開催を実現しようと、熊本市地元関係者と自治体学会関係者で、諸般の事情について慎重に検討・準備をしてきました。たしかに、感染状況は完全に終熄しているとはいえませんが、国内外で一定の社会活動が回復しつつあり、また、回復する方向での努力が進められています。そこで、現時点で、現地対面開催を開催できると判断し、開催のご案内をさせて頂くことになりました。3 年ぶりの再開、または、新たな交流の機会となります。ふるっての皆様のご参加を頂ければ幸いに存じます。

もちろん、事態の急速な変化によって、現地大会が開催できない可能性もないとはいえませんが、そのような状況に関しては、会員の皆様方にも、ご事情をご賢察のうえ、なにとぞご理解をいただければと存じます。

多くの有志がネットワークの絆を深め、対面での交流をも通じて、明日の英氣を得ることができていることを確信し、ご挨拶とさせていただきます。

自治体学会理事長 金井 利之
(東京大学教授)

《 開催概要 》

■ 第36回全国自治体政策研究交流会議くまもと大会

日程	内 容	会 場	備 考
8月19日(金)	13:00 開場・受付開始 14:00 開会 熊本市長あいさつ 14:05 基調講演「復興、そしてこれからの熊本市のめざすまちの姿」 講師 北川 正恭 氏（早稲田大学名誉教授、元熊本市復興アドバイザー） 14:45 休憩 14:55 パネルディスカッション 「熊本市の未来～政令指定都市移行10周年を振り返って～」 ○コーディネーター 村上 美香 氏（㈱ヒトコト社 代表） ○パネリスト 笠原 慶久 氏（熊本経済同友会代表幹事） 日比野 克彦 氏（東京藝術大学学長、熊本市現代美術館館長） 小林 寛子 氏（東海大学文理融合学部地域社会学科教授） 大西 一史（熊本市長） 16:30 閉会	熊本城ホール メインホール（4階） 〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町3番40号（サクラマチクマモト内） JR熊本駅から熊本市電「辛島町」駅まで約12分 下車後、徒歩2分 TEL：096-312-3737	参加費 無料
	18:40 自治体学会賞表彰式 19:40 参加者交流の場（飲食の提供はありません）		参加費 無料

■ 第36回自治体学会くまもと大会

日程	内 容	会 場	備 考
8月19日(金)	16:45 研究発表セッション A：分権、自治制度 B：関係人口 C：コミュニティ、地域活性化 18:30 D：防災・災害、情報伝達・共有 E：SDGs、環境		
8月20日(土)	9:10 自治体学会総会 10:00 受付開始 10:20 開会あいさつ、 10:30 基調講演「地球環境の危機の時代にご多様な少数社会の構築を ～過疎地域から日本を考える～」 講師 宮口 侘廸 氏（早稲田大学名誉教授） 11:30 ポスターセッションコアタイム 12:15（昼食・休憩） ～13:00 13:00 分科会 第1部 1 (地元企画) 被災体験に学ぶ～熊本・人吉のまちづくり～ 2 法務「も」できる職員になる！～文書管理の高度化を見据えた人材育成～ 3 地域づくりのあり方から人口を捉え直す ～2020年国勢調査結果とポスト・コロナを見据えて～ 4 コロナ禍で取り残された女性たち・・・その先の自治体政策 ～自治体は「人間の安全保障」の観点から何をすべきか～ 5 自治体におけるゲーミフィケーション活用の可能性 6 (公募企画) ライフヒストリーと自治体研究 15:00 分科会 第2部 15:15 7 大規模災害と記憶の継承 8 自治体職員の本来業務外の活動について考える ～活動の意義、評価、葛藤、そして可能性～ 9 非営利組織の資金調達とその評価 10 ヤングケアラーへの支援とは？～実態と現在の取り組みから探る～ 11 議会でも女性が活躍するために～現状と課題を考える～ 17:15	熊本城ホール 会議室（3階） 〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町3番40号 TEL：096-312-3737	参加費 【会員】 3,000円 【非会員】 6,000円
	10:00～17:00	ポスターセッション（コアタイムは11:30～12:15）	熊本城ホール（3階ホワイエ）

■ エクスカーション

日 程	内 容	参加費
8月21日(日)	Aコース 天守閣復活！震災の記憶と記録を市民ガイドと巡る、今しか見ることのできない熊本城視察コース	A：2,000円
	Bコース 未来への轍を辿る！南阿蘇の『学生村』復興の道程を見て、聞いて・語る、震災伝承館視察コース	B：7,000円

第36回全国自治体政策研究交流会議くまもと大会

2022年8月19日 熊本城ホール（14時～16時30分）

【基調講演】

演題：「復興、そしてこれからの熊本市のめざすまちの姿」

講演者：北川 正恭（きたがわ まさやす）



1944年生まれ。1967年早稲田大学第一商学部卒業。1972年三重県議会議員当選（3期連続）、1983年衆議院議員当選（4期連続）。1995年、三重県知事当選（2期連続）。「生活者起点」を掲げ、ゼロベースで事業を評価し、改革を進める「事業評価システム」や情報公開を積極的に進め、地方分権の旗手として活動。達成目標、手段、財源を住民に約束する「マニフェスト」を提言。知事を2期務めた後、2003年4月に退任。2003年4月より早稲田大学政治経済学術院教授。2015年3月に退任。現在、早稲田大学 名誉教授、同マニフェスト研究所顧問。「新しい日本をつくる国民会議」（21世紀臨調）共同代表。2009年地域主権戦略会議構成員。2011年より相馬市復興会議顧問。2013年より長野県政策研究所チーフアドバイザー、新潟州構想検討推進会議顧問。元熊本市復興アドバイザー。

【パネルディスカッション】

演題：熊本市の未来～政令指定都市移行10周年を振り返って～

概要：政令指定都市移行後10年を振り返り、今後の熊本市のめざす姿・ビジョン、その実現に向けた取組について議論する。

《パネリスト》

○笠原 慶久（かさはら よしひさ） 熊本経済同友会 代表幹事／(株)肥後銀行 代表取締役頭取



1984年4月に富士銀行入行。米国留学(MBA)、ロスアンゼルス支店、みずほホールディングス人事部、みずほコーポレート銀行営業第四部、企画担当役員付等を経て、2007年4月みずほ銀行熊本支店長となる。2015年4月に常務執行役員 監査部長として(株)肥後銀行へ入行し、現在は(株)肥後銀行 代表取締役頭取を務める。「自主・自律・自発」の「企業理念に基づく現場重視の経営」により、お客様・地域の課題解決支援に真摯に取り組み、「卓越した地域価値共創組織」を目指している。(株)九州フィナンシャルグループ 代表取締役社長、(公財)地方経済総合研究所 代表理事も務める。

○日比野 克彦（ひびの かつひこ） 熊本市現代美術館館長

1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。大学在学中にダンボール作品で注目を浴び、国内外で個展・グループ展を多数開催する他、パブリックアート・舞台美術など、多岐にわたる分野で活動中。地域の特性を生かした市民参画型の芸術活動に全国で取り組む。熊本においては2007年、まち・市民と連携し作り上げた展覧会「現代美術館開館5周年・熊本城築城400年祭記念 日比野克彦 HIGO BY HIBINO 展」のほか、数々のワークショップを開催。東京藝術大学学長、岐阜県美術館館長も務める。



○小林 寛子（こばやし ひろこ） 東海大学文理融合学部地域社会学科（エコツーリズム研究室）教授



オーストラリアと日本でエコツーリズムコンサルタントとして、エコリゾートの建設、エコツアー商品の開発、マーケティング、人材教育などを手がけてきた。現在、地域の課題解決のために地域の宝を丁寧に掘り起こし、宝を活用したイベントの企画・運営、訪日観光の新商品造成、日豪環境ボランティアプログラムの開発などエコツーリズムのしくみを通して地域振興につなげる取り組みを学生と実践中。熊本県観光審議会委員、熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会委員、熊本市自治推進委員会副委員長、九州経済連合会観光委員会委員なども務める。

2013年より現職。

○大西 一史（おおにし かずふみ） 熊本市長

1967年熊本市生まれ。日本大学卒。内閣官房副長官秘書として勤務。この経験で、中央集権の問題点と地方自治の重要性を認識。1997年から熊本県議会議員を5期務めながら、2008年九州大学大学院入学。14年同大学院法学府法政理論専攻博士後期課程単位修得退学。同年12月に熊本市長就任。現在2期目。豊かな自然と歴史・文化、九州中央の交流拠点といった魅力や特性をさらに磨き上げ、市民一人ひとりの多様な価値観を満足させることができるバランスのとれたまち、「上質な生活都市」の実現を目指している。



≪コーディネーター≫

村上 美香（むらかみ みか）（株）ヒトコト社 代表



講演、司会、執筆、フォーラムやシンポジウムのコーディネート、ラジオやテレビ番組の企画や出演、企業や学校等での話し方講座などを手がける伝え手。テレビ局での24年間のアナウンサー経験のうち21年間、毎日2時間生放送のキャスターを務める。また、動物愛護関連番組や子宮頸がん、部落差別で苦しむ人々に焦点を当てたドキュメンタリーなど、企画から出演までを行ってきた。「もっと伝わる」言葉で、一人でも多くの人が「生きやすい世の中」になるための情報発信を心かけている。2018年コミュニケーション専門店「ヒトコト社」を設立。一般社団法人「ライフデザイン・アカデミー」の認定講師。



未来を創る：サクラマチクマモト

大会統一テーマ

「火の国、水の国で描くこれからのまちづくり～記憶・経験を未来につなぐ」

◎第1日 8月19日(金)

＜研究発表セッション (16:45～18:30)＞

会員が自治の諸課題に取り組む実践報告や研究成果などを発表し、会場の参加者と議論を深めます。

※司会・コメンテーターはいずれも調整中

<p>セッションA：分権、自治制度</p> <p>1 鈴木洋昌 第2期分権改革の成果は活用されているのか—放課後児童健全育成事業を事例として</p> <p>2 田代光輝 無料スマートフォンアプリを利用した、2020年東京都知事選における、選挙ポスターの笑顔度等、得票数との相関分析</p> <p>3 福地健治 住民はなぜ投票に行かなかったのか？—石川県輪島市の事例をもとに自治体における住民投票条例の在り方を考える</p> <p>4 本田正美 情報システムに係る公共調達における競争入札参加事業者の多様性</p>
<p>セッションB：関係人口</p> <p>1 河井孝仁 「シティプロモーションアワード2021」応募自治体から見る施策傾向分析</p> <p>2 水野雅代 地域課題解決型 社外活動の実態と関係人口への影響に関する考察—「鳥取まちづくり(発表辞退) ワークーション」参加の首都圏人材への注目—</p> <p>3 服部恭子 関係人口創出施策における都道府県と市町村連携に関する考察</p> <p>4 神奈川県政策研究センター 地域づくりとワークーション～神奈川県を事例として～</p>
<p>セッションC：コミュニティ、地域活性化</p> <p>1 黒木誉之 日本における地域コミュニティ政策の変遷と今後の展望</p> <p>2 井澤和貴 都心部における空き家の利活用に関する研究—東京都千代田区を事例として—</p> <p>3 古賀敬作、崎山仁、岩下紗斗、米田加奈、西村文伽、藤田聖奈、山口千晴 「デジタル社会」と「ヒトと人の触れ合い社会」との融合による地域活性化—都市型超高齢社会の身近な課題—</p> <p>4 内藤法子、松本武洋 ラリーツーリズムの可能性～ラリー競技大会開催の効果と誘致の実際</p>
<p>セッションD：防災・災害、情報伝達・共有</p> <p>1 丸藤一貴 災害時の児童・生徒の避難行動について防災行政が果たすべき役割—大川小学校津波訴訟を手がかりとして—</p> <p>2 林田怜菜 災害弱者としての女性に寄り添う避難所運営ノウハウの発見と共有について</p> <p>3 高野俊英 自治体と住民の協働等による地域の防災活動の実態と課題等について—東京都内の事例を中心に</p> <p>4 井上里鶴、長谷川頼子 自治体職員を対象とした「やさしい日本語研修」—茨城県土浦市役所における実践—</p>
<p>セッションE：SDGs、環境</p> <p>1 山口和海 「木になる紙」の公共調達によるCO2排出量削減の取組みについて～新たな環境価値の共創～</p> <p>2 上山 肇 水辺のまちづくりとSDGs未来都市計画—親水空間と江戸川区のまちづくり—</p> <p>3 衣川智久 「協働」による「みどり」空間の創出—大学院生によるグループディスカッションを通して—</p> <p>4 山中佳彦 武蔵小杉地域における新旧住民の居住意向および住環境評価に関する研究</p>

＜自治体学会賞表彰式・参加者交流の場

(18:40～19:40)＞

◎第2日 8月20日(土)

<開会あいさつ (10:20~10:30)>

<基調講演 (10:30~11:30)>

演題 「地球環境の危機の時代にこそ豊かな少数社会の構築を～過疎地域から日本を考える～」

講師 宮口 侗廸 氏 (早稲田大学名誉教授)

<ポスターセッション・コアタイム (11:30~12:15)>

<昼食・休憩 (12:15~13:00)>

<分科会 第1部 (13:00~15:00)>

分科会 1 (地元企画) 被災体験に学ぶ ～熊本・人吉のまちづくり～

熊本県人吉・球磨地方は2020年夏、集中豪雨による球磨川の氾濫で甚大な被害に見舞われた。被災から2年を経て、流域のまちの再生はいくつもの難題に直面している。

浸水被害が大きかった人吉市中心部は転出者が相次ぎ、被災家屋が撤去された更地が目立つようになった。人口減少も進み、市は「まちづくりの課題が10年前倒しになった」と実感している。「なりわいの復興」も大きな課題である。またいつ襲ってくるか分からない災害に備えた「減災のまちづくり」へ向け、動き出した市民もいる。

自然災害は今や、すべての地域が想定しなくてはならない。人吉市の事例を踏まえ、被災したまちの再生の鍵を考えながら、どの地域にも当てはまる課題を見いだしたい。

◎パネリスト 瀬崎 公介 (球磨川くんだり株式会社代表取締役、株式会社シークルーズ代表取締役)

◎パネリスト 本田 節 (有限会社ひまわり亭代表取締役)

◎パネリスト 溝口 尚也 (人吉市役所経済部長)

●コーディネーター 澤田 道夫 (熊本県立大学総合管理学部教授)

分科会 2 法務「も」できる職員になる！ ～文書管理の高度化を見据えた人材育成～

少子高齢化社会の基礎自治体では、経済縮小・人口減少を受けて役所のリソースも絞られ、職員各人が二人力、三人力の活躍を求められるようになってきている。

とりわけ法令の理解と判断が必要な事務では、外部委託が簡単でなく、また制度改正や裁判が相次ぐと、前例やマニュアルに従った処理が困難な場面も出てくる。しかし、職員の法務能力を磨く方法が確立していない。個々の自治体が経験する法務事例の数は多くないため、職場での試行錯誤で鍛錬していくことにも限界がある。かといって安易に集合研修(知識の詰め込み)に期待すべきでもない。

本来、自治体の日常業務において、「法務」はそんなに特殊で専門的な要素ではなかったはずである。職員が自分の仕事の「根拠」を探るなら、必然的に法令を手繰ることになる。マニュアルや引継文書は便利だが、そこに埋め込まれた「根拠」を掘り起こせなければ、責任のある仕事ぶりとは言えない。役所の仕事は文書に始まり文書に終わる。その真の意味を追究し人材育成論に繋げる。

◎パネリスト 石川 雅朗 (荒尾市役所総務部総務課行政管理係長)

◎パネリスト 高宗 亮輔 (熊本日日新聞社編集局地域報道本部記者)

◎パネリスト 奥住 弘久 (熊本大学大学院人文社会科学部教授)

●コーディネーター 原島 良成 (熊本大学大学院人文社会科学部准教授)

分科会 3 地域づくりのあり方から人口を捉え直す

～2020年国勢調査結果とポスト・コロナを見据えて～

地方消滅の警告移行2度目となる国勢調査の結果が順次公表され、引き続き人口減少が進んでいる実態が明らかとなった。一方、地方創生は国・自治体とも2期目の総合戦略が中間期を迎えており、今後は最新の結果を踏まえて2期目の総括や以降の方向性を検討することになるだろう。また、将来推計人口の更新も行われるであろう。

特に、2期目では「関係人口」が新たに提起されたが、新型コロナウイルスの蔓延による新しい生活様式としてテレワークやワーケーションなどが浸透しつつあり、こうした動向が関係人口ひいては地方創生に大きな影響を与える可能性がある。

以上から、2020年国勢調査結果とポスト・コロナを見据えて地域づくりのあり方を見直すべきではないだろうか。そこで、本分科会では、地方創生の原点となる人口の最新状況とポスト・コロナを見据えた地域づくりの見通しを踏まえ、人口の捉え方を再検討する。

◎パネリスト 佐々井 司 (福井県立大学・地域経済研究所教授)

◎パネリスト 江藤 早希 (熊本市役所政策企画課主任主事)

◎パネリスト 岩下 潤次 (熊本県大津町役場総務部総合政策課長)

●コーディネーター 井上 武史 (東洋大学教授、鯖江市総合戦略推進会議委員)

分科会 4 コロナ禍で取り残された女性たち・その先の自治体政策 ～自治体は「人間の安全保障」の観点から何をすべきか～

Covid-19 対策で繰り返された日常生活の自粛要請は、経済活動への影響はもとより、人々の対面交流をも断絶し、平時でも取り残されがちだった人々（子ども・女性・高齢者・障害者・外国人など）の暮らしをより困難なものとしている。この分科会では、コロナ禍で取り残された女性たちが抱えた課題（困窮やDV、孤立等々）に焦点を当て、「人間の安全保障」の観点から自治体の対応を振り返りつつ、「女性×子ども」や「女性×外国人」「女性×障害者」などの複合的な問題も浮き彫りにする。その上で、政策形成への参画や地域社会での包摂等の視点も交え、政策展開の可能性を検討したい。

- ◎パネリスト 小澤 さおり（豊島区役所子ども家庭部子ども若者課長）
- ◎パネリスト 原田 紀代美（豊岡市役所総務部ジェンダーギャップ対策室室長補佐）
- ◎パネリスト 相藤 巨（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科兼任講師）
- コメンテーター 後藤 千恵（ジャーナリスト）
- コーディネーター 萩原 なつ子

（独立行政法人国立女性教育会館理事長／認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事）

分科会 5 自治体におけるゲーミフィケーション活用の可能性

ゲーミフィケーションとは、ゲームの要素を応用することで人々を動機づける手法である。すでにビジネスの世界では様々な導入事例が存在しているが、近年では行政分野においてもゲーミフィケーションを社会課題の解決につなげようとする動きが高まっている。

たとえば、熊本県の職員有志が 2014 年に開発した「simulation 熊本 2030」は、2025 年問題から生じる様々な課題への対応を、対話を通じてシミュレートすることを目的としたボードゲームであり、今日まで様々な自治体のワークショップ等で利用されている。しかしながら、こうした行政分野におけるゲーミフィケーションの調査・研究は、日本ではいまだほとんど進んでいない。そこで、本企画では、行政分野におけるゲーミフィケーション活用の具体的な事例や海外の研究動向を把握することを通じて、自治体におけるゲーミフィケーション活用の可能性や課題などについて議論を深める。

- ◎パネリスト 和田 大志（熊本県庁職員／東京大学公共政策大学院修士 2 年）（ビデオ出演）
- ◎パネリスト 田井 浩人（公益財団法人日本都市センター研究員）
- ◎パネリスト 濱嶋 健太（熊本県庁財政課参事）
- コーディネーター 嶋田 暁文（九州大学大学院法学研究院教授）

分科会 6 （公募企画）ライフヒストリーと自治体研究

自治体研究では、「自治に人あり」シリーズ以降、自治にかかわる人々のライフヒストリー研究が進展してきた。他方、地域社会学、地域経済史等、他の学問領域に比べると、収集したライフヒストリーの成果を用いて、実際の自治体の行政のしくみや地域権力構造に迫る研究は多いとは言えない。本企画では、パネリスト及びコーディネーターが個人研究・共同研究によりそれぞれに実施してきたライフヒストリー調査の結果を用い、次の 2 つを検討する。

第一に、従来の 1 次及び 2 次資料等に基づく研究成果に対して、どのような新たな知見を発見し、自治体研究に新たな分析視角が提示できるかを明らかにする。第二に、話者の立場、聴き手との関係者、話し手による話内容の解釈の仕方、ポジショナリティなど、方法論的な課題を考えていく。

本分科会では、以上の 2 つの検討を通じて、自治体学の知見を広げ、会員による研究方法のさらに進展することを目指す。

- ◎パネリスト 荒見 玲子（名古屋大学大学院法学研究科教授）
- ◎パネリスト 松井 望（東京都立大学都市環境学部都市政策科学科教授）
- ◎パネリスト 稲垣 浩（國學院大学大学院法学研究科教授）
- コーディネーター・討論者 大谷 基道（獨協大学法学部総合政策学科教授）

＜分科会 第2部

(15:15~17:15) ＞

分科会 7 大規模災害の記憶の継承

2011年の東日本大震災、2015年の熊本地震の復興が成し遂げられつつある現在、災害の記憶を後世に継承することが大きな課題となっている。大会の開催地である熊本では、熊本地震の災害の経験を後世に語り継ぐために、「熊本地震 記憶の回廊」プロジェクトなどが、熊本県、県内自治体や市民団体などによって取り組まれつつある。そうした取り組みは危機管理や防災教育の観点からも重要である一方、観光や地域づくりの資源としての側面も有している。

本分科会では、東日本大震災の記憶の継承に取り組む気仙沼市の取り組み、熊本地震の記憶の継承にとりくむ益城町の取り組みを中心に、災害の記憶の継承、その担い手、手法などの観点から意見交換を行う。

◎パネリスト 佐藤 健一（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館前館長）（ビデオ出演）

◎パネリスト 田中 尚人（熊本大学大学院先端科学研究部准教授）

◎パネリスト 堤 英介（益城町教育委員会生涯学習課生涯学習係係長）

●コーディネーター 鈴木 伸治（横浜市立大学国際教養学部教授）

分科会 8 自治体職員の本来業務外の活動について考える ～活動の意義、評価、葛藤、そして可能性～

自治体職員による本来業務以外の活動（自主研究活動やオフサイトミーティングなどの活動を指す）に注目が集まっている。業務外活動は、職場内外のネットワーク構築、キャリアの多様化といった個人に資する効果だけでなく、地域社会の担い手不足解消や政策へのフィードバックなど、組織的な効果も期待され、自治体によっては当該活動を積極的に取り入れようとする動きもある。

他方、業務外活動によって本来業務が疎かになる、業務外活動が自治体職員の活動のほんの一部として見栄えよく切り取られる、業務と業務外活動の線引きなど、検討すべき課題も多い。

本分科会では、業務外活動を行っている職員の葛藤や現場での苦悩に着目しつつ、活動の意義、評価のあり方などを議論し、今後の業務外活動の可能性についても検討したい。

◎パネリスト 今村 寛（福岡地区水道企業団総務部長）

◎パネリスト 神崎 由美（福岡県春日市役所総務部長）

◎パネリスト 橋本 進之介（熊本県上天草市役所参事）

●コーディネーター 杉岡 秀紀（福知山公立大学准教授）

分科会 9 非営利組織の資金調達とその評価

これまでに多くの業務を非営利組織に委託したり、さまざまな施策を通じて非営利組織との関係を深めたりしてきました。今日、非営利組織は公的な役割を果たす存在として認知されつつあります。しかしながら、自治体をはじめとした資金提供者側が、非営利組織を「安価なサービス供給者」と捉える傾向が根強く、また、委託等においてアカウンタビリティが重視されるようになり、非営利組織の特性が十分に考慮されず、本来の持ち味が生かされていないようにもみえます。

本分科会では、休眠預金等活用法に基づく助成事業に着目し、資金分配団体による実行団体への伴走支援や評価プロセスがどのようになされているかを議論します。そして、その知見を自治体の委託や補助に反映させるにはどのような対応が考えられるかを考えます。

◎パネリスト 松村 渉（NPO法人ひろしまNPOセンター プロジェクトマネージャー）

◎パネリスト 石田 達也（NPO法人宮崎文化本舗理事長）

◎パネリスト 山田 健一郎（公益財団法人佐賀未来創造基金理事長）

●コーディネーター 原田 晃樹（立教大学コミュニティ福祉学部教授）

分科会 10 ヤングケアラーへの支援とは？ ～実態と現在の取り組みから探る～

大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話などを担っている子どものことを「ヤングケアラー」という。彼（女）らは、ケアと社会生活の両立によるストレスで精神的・肉体的健康の悪化のほか、学校生活にも支障が生じている上に、学習時間が取れず学力が低下し、進学を諦めるなど将来の選択に悪影響が及んでいる場合もある。また、孤立など特有の苦難も抱える。国の調査では小学生から大学生のヤングケアラーの存在が明らかになり、支援の必要性が高まっている。一方で、大半の自治体では、実態把握や支援の取り組みが進んでおらず、具体的な対応について戸惑いも見られる。

本企画では、ヤングケアラーをめぐる国・自治体の取り組み状況を概観した上で、元・ヤングケアラーの実体験を聴き、さらに支援現場の実務担当者の取り組みの内実と課題を把握することで、ケアする人もケアされる人も地域で支えることができる仕組みや方向性を明らかにしたい。

◎パネリスト 徳永 航太（熊本市高齢者支援センターささえりあ井芹室長）

◎パネリスト 池内 亜紀子

◎パネリスト 片山 皓平（山陰中央新報社記者）

●コーディネーター 鏡 諭（法政大学大学院公共政策研究科兼任講師ほか）

分科会 11 議会で女性が活躍するために～現状と課題を考える～

地方議会における議員の構成が住民のそれと乖離している。

この議員の属性が偏っていることが、幅広い層の政治参加や、民意の反映を妨げているのではないか。当分科会では、中高年男性偏重、特に女性議員の低比率に着目する。

議会が幅広い民意を反映するために、女性議員が活躍しやすい議会の実現を目指し、参加者と課題を共有して解決の糸口を探っていきたい。

◎パネリスト 服部 香代（熊本県山鹿市議会議員）

◎パネリスト 盛 泰子（佐賀県伊万里市議会副議長）

○コメンテーター 土山 希美枝（法政大学法学部教授）

●コーディネーター 前田 隆夫（西日本新聞論説委員）

ポスターセッション

8月20日（土） 10:00～17:00

地域ブロック単位、個人・団体の報告書などの配布・展示、自治体の取組みの紹介、出版物の展示・配布等を通して、参加者が交流・意見交換できる場としてポスターセッションを開催します。コアタイム(11:30～12:15)には出展者が展示内容について解説します。

エクスカージョン

8月21日（日）

◎Aコース

天守閣復活！震災の記憶と記録を市民ガイドと巡る、今しか見ることのできない熊本城視察コース

桜の馬場 城彩苑 == 熊本城 == 桜の馬場 城彩苑【お食事・お買い物】

9:00 集合・出発 9:15～11:00 11:15 頃解散

※熊本城視察時間につきましては目安となり、前後する場合があります。

※解散後、城彩苑の歴史体験施設や飲食物販施設を利用できます（別料金）。

◎Bコース

未来への轍を辿る！南阿蘇の『学生村』復興の道程を見て、聞いて・語る、震災伝承館視察コース

熊本桜町バスターミナル ===== すがらの里【語り与交流プログラム】

9:00 集合・出発 10:30～12:30

==== 阿蘇くまもと空港 ===== 熊本市桜町 ===== 熊本駅

13:15 頃解散 14:15 頃解散 14:30 頃解散

エクスカーションのご案内 <8/21(日)> (募集型企画旅行)

参加者同士の親睦を深め、熊本での滞在をより有意義にお過ごしいただく為、エクスカーションをご用意いたしました。

11頁の大会申込WEBサイトにてお申込みいただくか、別紙大会申込書のエクスカーション希望欄にご記入の上、FAXまたはEメールまたは郵送にて大会事務局へお申し込みください。

[A] 8月21日(日) 9:00 ~ 12:00

天守閣復活！震災の記憶と記録を市民ガイドと巡る、今しか見ることのできない熊本城視察コース

[B] 8月21日(日) 9:00 ~ 14:30

未来への轍を辿る！南阿蘇の『学生村』復興の道程を見て、聞いて・語る、震災伝承館視察コース

※各コース最少催行人員に満たない場合は、催行中止となります。

催行中止の場合、8月10日(水)までにご連絡いたします。

※受付はお申し込み順とさせていただきますので、お早目にお申し込みください。

※一部徒歩の行程がございます。歩きやすい服装、靴でご参加ください。

※悪天候や交通事情で、行程の一部を急遽変更する場合がございます。予めご承知おき願います。

■旅行企画・実施■ 九州産交ツーリズム株式会社 旅行事業部法人団体営業課

TEL:096-325-8240 担当：大森雅己

[A] 天守閣復活！震災の記憶と記録を市民ガイドと巡る、今しか見ることのできない熊本城視察コース

◎ご旅行代金：お一人様2,000円 ◎募集人員30名(最少催行人員20名) ※添乗員が同行します。
旅費に含まれるもの：熊本城入場料、ガイド料

日時	行程
8/21 (日)	桜の馬場 城彩苑 == 熊本城 == 桜の馬場 城彩苑【お食事・お買い物】 9:00集合・出発 9:15~11:00 11:15頃解散 ※熊本城視察時間につきましては目安となり、前後する場合があります。 ※解散後、城彩苑の歴史体験施設や飲食物販施設を利用できます(別料金)。

慶長12(1607)年、茶臼山と呼ばれた台地に加藤清正が当時の最先端技術と労力を投じた、名城熊本城が完成します。以後、熊本城は400年に亘る日本の様々な歴史の重要な舞台となっていきます。平成28年熊本地震では、石垣の崩落や建築物の倒壊など甚大な被害を受けましたが、復旧工事が続くなか、令和元年に熊本城特別公開がスタートし、被害状況や復旧工事の様子をご見学いただけるようになりました。復旧工事期間中の今だからこそ見ることができる熊本城の姿を、市民ガイドとともに、ぜひお楽しみください。



熊本城天守閣

[B] 未来への轍を辿る！南阿蘇の『学生村』復興の道程を見て、聞いて・語る、震災伝承館視察コース

◎ご旅行代金：お一人様7,000円 ◎募集人員30名(最少催行人員20名) ※添乗員が同行します。
旅費に含まれるもの：貸切バス代(利用バス会社/九州産交バス)、駐車代、視察・お弁当代

日時	行程
8/21 (日)	熊本桜町バスターミナル == 阿蘇くまもと空港 == 熊本市桜町 == 熊本駅 == すがらの里【語り与交流プログラム】 9:00集合・出発 13:15頃解散 10:30~12:30 14:15頃解散 14:30頃解散

観測史上初の2度の震度7を観測した平成28年熊本地震。崩落した旧阿蘇大橋のたもと、南阿蘇村の黒川地区は東海大学の学生約800名が住む「学生村」でした。地震後はキャンパスは移転に伴い学生は不在になりましたが、下宿やアパートを営んでいた地域有志で「すがらの里」を設立し、実習時の学生向け弁当作りや地域づくり活動に取り組んでいます。本プログラムは、「すがらの里」手作りの復興弁当を食べ、メンバーと体験談講話や意見交換を通して交流いただきます。



熊本地震で被災した黒川地区

自治体学会事務局からのお知らせ

◆くまもと大会における宿泊について

従来、参加申し込み時に受付をしていました宿泊施設の予約・斡旋は、くまもと大会では行いませんので、ご理解くださいますようお願いいたします。

なお、くまもと大会の会場となる「熊本城ホール」（大規模複合施設「サクラマチクマモト」内）は、熊本市の繁華街から徒歩圏内にあり、宿泊施設は数多く点在しています。

大会への参加を予定されている方は、各自で、宿泊施設を早目に確保されますよう、お願いいたします。

◆参加者の受付について

8月19日（金） 午後12時～午後3時

・場所 熊本城ホール 3階ホワイエ

政策研究交流会議会場へはエスカレーターで上がれます

午後3時頃～終了時

熊本城ホール 会議室階（3階）（研究発表セッション会場フロア）

8月20日（土） 午前9時30分～終了時

・場所 熊本城ホール 会議室階（3階）

※午後から参加される場合でも、必ず、受付を済ませてください。

◆大会資料について

- ・プログラム集は印刷物としては発行せず、学会ホームページに掲載いたしますので、ご覧ください。
- ・当日資料集についても印刷物としては発行いたしません。大会への参加を申し込まれた方には、資料の取得（ダウンロード）方法につきまして、大会数日前までにメールで連絡いたします。
- ・必要な資料は、ご面倒でも、各自でプリントアウトするなどして、ご持参願います。

◆自治体学会総会について

- ・自治体学会の総会は、9時10分から10時10分までの予定で、熊本城ホール3階A1会議室で行います。
- ・総会は、学会の事業計画案や予算案、役員改選を審議する重要な会議です。分科会の打合せなど支障のない方はご出席下さい。19日に受付を済ませていない方は、総会后に受付を済ませてください。

◆研究発表セッション、基調講演、分科会、ポスターセッションの会場について

- ・2日間とも、すべて熊本城ホール3階の会議室各室を使用して開催します。
- 会場の一覧表を受付で配布いたします。

◆コロナ対策について

- ・大会当日、発熱等で体調の悪い方は参加を中止してください。
- ・場内ではマスクの着用をお願いします。また、大声等での会話はお避け下さい。
- ・会場内には消毒薬を配置しますので、適宜ご利用ください。
- ・従来から実施している飲食を伴う「情報交換会」は、今回は実施いたしません。19日夕刻、学会賞表彰式に引き続き、「参加者交流の場」を設けますが、飲食の提供はありませんので、ご承知願います。

◆昼食会場について

- ・熊本城ホールのある「サクラマチクマモト」には、地階及び上階に多くの飲食店があります。昼食時間帯は混雑が予想されますので、昼食を持参されるか、弁当の予約をお願いします。
- ・昼食は会場内の各部屋でおとりいただくことが可能です。

◆喫煙場所について

- ・館内は全面禁煙です。
- なお、「サクラマチクマモト」内には、B1、3F、4F、屋上に喫煙場所がありますが、詳しくは「サクラマチクマモト」の会場案内をご覧ください。

参加申込について

今年度の自治体学会大会は、3年ぶりに現地での開催として、熊本市で行われます。参加の申込は、従来の旅行事業者への業務委託ではなく、事務局が受付窓口となります。

参加を希望される方は下記の方法により申し込んでください。

<参加申込方法>

- 開催案内に示してある「大会参加申込書」により、必要事項を記入の上、メール、FAX、郵送にて事務局へお送りください。

申込書のファイルは学会ホームページにも掲載しています。

- ・E-mail jichitai-soumu1986@jigaku.org
- ・郵送 〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町3-4 ニュー楓ビル8F
- ・FAX 03-5577-3187

- 次のサイトからも申し込むことができます。
申し込み後、「送信」をクリックすると申込内容の写しが、指定のアドレスに送付され確認ができます。

<https://forms.gle/WsfiZkaARMPE95YT9>

右のQRコードからも申し込みが可能です。



- 参加申込期限は、**2022年7月31日(日)**です。
- 参加費は次のとおりです。(1日のみの参加も同額です。)
会 員 3,000円
非会員 6,000円

なお、参加費について、自治体学会発行の領収書が必要な方は、直接自治体学会事務局宛にお申し込みください。

- ・E-mail メール送付先：jichitai-soumu1986@jigaku.org

＜参加費の振り込み＞

- 大会参加費、エクスカーション参加費、弁当代については、8月10日(水)までに、振込手続きをお願いします。
- 次のいずれかの口座へ振込をお願いします。振込手数料は参加者負担となりますのでご了承ください。
- 参加費の入金後、公務等の都合により参加できなくなった場合は、事務局に8月15日(月)までにご連絡ください。

【振込先口座】

① 三菱UFJ銀行 八重洲通支店 普通預金 口座番号：0378416
口座名義 ジチタイガッカイ 自治体 学会 リジチョウ 理事長 カナイ 金井 トシユキ 利之

② ゆうちょ銀行 ゼロイチハチ 〇一八 支店 口座番号：0210789
口座名義 ジチタイガッカイ

- 参加費の入金が完了した方には、大会参加証等をお送りします。この参加証は大会当日にご持参ください。

(大会に関する問い合わせ先)

自治体学会事務局 杉渕

電話 03-5577-3187

E-mail jichitai-soumu1986@jigaku.org

申込日 2022年 月 日

受付番号

第36回全国自治体政策研究交流会議・第36回自治体学会 くまもと大会 申込書<大会参加等>

大会参加のため必要な範囲内の個人情報提供について同意の上、以下の通り申し込みをします。

都道府県名	所属団体・部署名	フリガナ	申込代表者名 ※連絡担当者	フリガナ
書類送付先 いづれかに■	□ 所属先 □ 自宅	郵便番号	フリガナ	
連絡先	TEL	FAX	E-Mail	

No.	参加者 名簿へ の掲載 どちらか ■	都道府県	所属団体・部署名	フリガナ 氏名	自治体学会 会員種別 会員・非会員どちらか■ 会員は会員番号記入 会員は会員番号記入	政策研究 交流会議	自治体学会										エクスカッション	弁当				
							参加費 【会員】3,000円 【非会員】6,000円	8/19(金)		8/20(土)		8/21(日)		8/21(日)		8/21(日)			8/21(日)			
例	■ <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	東京都	東京都〇〇区〇〇課	アズマ タロウ 東 太郎	■ 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 会員番号 1234 <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 会員番号	参加費無料	8/19(金)	16:45~ 18:30	18:40~ 19:40	9:10~ 10:10	10:30~ 11:30	13:00~ 15:00	15:15~ 17:15	[A] 参加費2,000 円	[B] 参加費7,000 円	8/21(日)	8/21(日)	9:00~ 11:15頃	9:00~ 14:30頃	1,000円	8/20(土)	
1	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可					研究会発表セッ ション	14:00~ 16:30	研究発表セッ ション	表形式・参加者交 流の場	総会	基調講演	分科会 第1部	分科会 第2部									
2	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可																					
3	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可																					
4	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可																					
5	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可																					

※ 6名以上の場合は、コピーをして対応してください。お問い合わせは下記の自治体学会事務局にご連絡ください。

(通信欄)

自治体学会事務局
〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町3-4 ニュー楓ビル8F
TEL&FAX 03-5577-3187 E-mail jichitai-soumu1986@jigaku.org



熊本城全景



昭君の間



市電



南阿蘇村 地震から1年後

(写真提供：熊本市、南阿蘇村フォトギャラリーより)

「火の国、水の国で描く これからのまちづくり
～ 記憶・経験を未来につなぐ～」

第36回 全国自治体政策研究交流会議くまもと大会 問合せ先

熊本市政策局総合政策部 政策企画課

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号

TEL: 096-328-2035 FAX: 096-324-1713

第36回 自治体学会くまもと大会 問合せ先

自治体学会事務局

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町3-4 ニュー楓ビル8F G

TEL/FAX: 03-5577-3187 HP: <https://www.jigaku.org/>